

全校朝会（平和のルールと鳥パート2）

2019. 4. 24

6年生に、給食についてインタビューしました。

この間、新聞に「平和をつくる6つのルール」という記事が載っていました。これは、兵庫県の水野さんという小学3年生の子が書いた文章をもとにした記事です。水野さんは、平和について書いています。「私の言いたいことは平和です。大切なのは、平和な世の中にするやり方です。ぶきをもってするのか、ぶきをほうきしてするのか。私はぶきをほうきします。ここで、みなさんに6つのことをおぼえてほしいです。「あ」あいさつをする 「い」いのちを守る 「う」うそをつかない 「え」えがおですごす 「お」おもいやりの心 「わ」わる口を言わないです。「あ」から「お」までは、学校で習いました。6つ目の「わ」は、自分で付け加えました。国と国がわる口を言い合うと戦争になるかもしれないからです。テレビで見た、原発避難の子がいじめられたニュースもきっかけになりました。」というものです。水野さんが平和について考え始めたのは、幼稚園の頃に読んだ「かわいそうなぞう」のお話がきっかけだそうです。「かわいそうなぞう」のお話は読んだこと、読んでもらったことのある人もいると思うのですが、戦争中、空襲で動物園が被害にあったら、動物たちが逃げ出して人間が危険になるので、その前に毒の入った餌を与えて死なせてしまおうとするお話です。でも、ぞうはかしこくて、毒の入った餌を吐き出すので、最後には、餌そのものをあげないようにしてしまいます。餌をあげなくなって何日もたったある日、ひよろひよろにやせたぐったりした体を起こして、ぞうが芸当をはじめめる場面がすごく考えさせられるお話です。動物園の人だって、毒の入った餌を与えたり餌をやらないで飢え死にさせたりしたいと思っていたわけではありません。平和やいのちについて、私たちはもっと考えた方がいいのだと思います。

さて、先週、鳥の話をして、みなさんの見たことのある鳥、お気に入りの鳥を教えてください、と言いましたが、オオツリスドリが好きだと書いてきてくれた人がいます。どんな鳥なのかなと思って調べてみたら、大きなぶらさがった巣を作る鳥でした。体が50cmくらいある鳥なので、その鳥が入ることができる巣というと、すごく大きな巣になります。パナマやコスタリカなどの中央アメリカなどにいる鳥だそうで、これらの国に行くと、1本の木に50~60くらいの巣がぶら下がっている様子が見られるそうです。巣も見てみたいのですが、この鳥は、樹の上で鉄棒の前回りみたいな恰好で鳴くというので、鳴いているところを見たり「オロオロオロオロ、オロロロロッ」という変わった鳴き声を聞いてみたいと思います。尾羽が鮮やかな黄色でバナナを食べる鳥だそうです。

「ウグイスがいたよ。声を聞いたよ。」と教えてくれた人もいます。ウグイスの声は、やはりきれいですね。この声の良さから、日本ではウグイスのことをうたった和歌が昔からたくさん読まれたり、ウグイスを飼って良い声に仕上げのお仕事が生まれたりしました。ウグイスの塾のようですが、とても人気のあるお仕事だったのだそうです。

ウグイスの話もあります。ウグイス姫、ウグイス長者などです。ウグイス長者という話には、米びつの上に置くとお米がどんどん増え、お味噌の樽の上に置いたらお味噌が樽いっぱいになる「鶯の一文銭」という不思議なお金が出てきます。貧しい若者が、このお金をもらうのですが・・・。この後は、図書館で本を見つけて、ぜひ、読んでみてください。